



中国文化交流会が主催した中国語スピーチコンテスト



HICEの中国語講座では教え方が上手と評判があります

をやりますよ。  
それから印象に残っているのは、産休のときです。私が産休に入る前にHICEがパーティーをやってくれたんです。みんながメッセージを書いてくれて。今も持っています。そしてみんな病院にお祝いに来てくれました。

——外国での出産は大変だったのではないですか？  
大変だったけれど、周りがすごく良かった。だから大丈夫でした。

——出産のときは、中国語を勉強している生徒さんのおばあちゃん2人が、終わるまで待っていてくれたんです。すごく温かい感じでいろいろと教えてくれて。本当に忘れられないです。私はそのとき、日本でどうしたらいいかわからないし、親もないし、とても助かりました。

——出産後もまた大変だったのではないですか？  
大変でした。でも友達が手伝ってくれました。お風呂に入れてくれたり、夫が出張するときは仕事を休んでうちに来て面倒見てくれたり。おばあちゃんも子供を預かってみてくれたり。とても助かりました。

——趙さんは周りのみんなから助けてもらったんですね。  
HICEに入って、友達がだんだん増えて来て、そこから中国語を教えるのを頼まれたんです。教えるなんて全然想像しなかったですが、でも「大丈夫、大丈夫」って言われて。それが中国語を教えることはあまりないと思ったから、日本に長くいるつもりがなかったの。

でも、HICEに入ってだんだん自分の世界も広がって。それでちょうどその頃に大連のテレビ局から、「休みも長すぎるし、どうしますか？」と言われて。  
——大連のテレビ局を休んでいたのは、3年くらいですか？  
そうですね、3年くらい。それで「じゃあ辞めます」って。それで日本で生活することにしました。自分の仕事もだんだん増えて来ていたから、中国の仕事はいいやって思えました。日本にも私の居場所がある、って。

——それまでは、中国での主婦のイメージがあったんですけど、考え方も変わりました。今、書くときは「私は主婦です」と書いています。  
日本の主婦は強いんですね。近所の人たちは自治会などの活動で、文書を書くときがあります。字がすごくきれいな。物知りだし。いろいろ勉強して知識もあるし、人との付き合いも男の人より強いでしょ？レストランに行くランチのとき、主婦ばかりですもんね。だから、主婦のイメージはもう変わりました。主婦も悪くないですね。

——浜松やHICEへのメッセージはありますか？  
浜松は趙さんにとってどんなまちですか？  
若々しく、イキイキして、元気なまち。私にとっては第2のふるさと。日本に来

しいことで、失礼なんです。

——そういう文化の違いが日本に来たばかりのときにはわからなかったですか？  
そうです。例えば、私たちは教科書で、日本のお正月では近所の人に物を持ってあいさつに行くって学びました。今はそんなにやらなくていいみたいですが、でも私たちはわからない。それで夫と一緒に、そんなに親しくはないけれど、あいさつくらいはする近所の人にあいさつに行ったら、もしか相手からももらったものは私たちの物よりいいものだった……。

——気まずい思いをしたんですね。  
そうですね。ほかに、餃子をつくったことがあって、近所の人に持っていくって「食べてみて」ってあげました。そうしたら、とても喜んでくれて、ウナギを持って来てくれたの。ウナギは高いでしょ？餃子は安い。逆にそうすると「どうしよう」って思って、とても恥ずかしかったです。

それから、日本だと招待されたときは出してもらったものをきれいに食べますよね。でも中国の場合は少し残すんです。全部食べきっちゃうと「物足りない」ということ。以前、友達を呼んでうちでごはんを食べたのですが、そのときは私たちも若くて、ものすごくいっぱい料理を作りました。向こうも一生懸命食べてくれて、「もうない、もっと作らなきゃ」って。作ったらすぐに食べちゃうから「いやー、どうしよう」って思っていました。

——食べる方も「どうしよう、また出てきた」と思ったでしょうね。  
よくそんなに食べられますね、って思いました。当時は若かったし、結婚したばかりで人を招待するのも初めてで「あんまり満足させられなかったな……」って呼びましよう」と思いました。結局、日本と中国の違いを後から知ったんですよね。もう本当に笑っちゃう。

### 「主婦」のイメージ

——先ほど、日本に来て1年くらいで帰るつもりだったとおっしゃいましたが、やっぱり日本にこのまま暮らそうと思っただけ、どなたか助けてくれたんですか？  
HICEに入ってそう思うようになっただけです。だんだん付き合いも多くなり、生活も楽しくなって、夫も仕事をそのまま続けているし、日本にいてもいいかな、と思ってきました。

——最初は日本の生活は寂しくてつまらなかったです。  
緊張していました。言葉が通じないし、何もできないし。自分の仕事もできないし。それが大きかったですね。中国は、今は専業主婦がだんだん増えてきましたが、当時はあまりいなかったんです。だから、「主婦」って言われるとすごく嫌な気持ちになるんですよ。中国人の感覚だと、主婦は何も知らない、家のことだけをやっている人。中国では、女性は必ず仕事をもたないと、何もできない人と思われる。でも日本には私のできる仕事があった。私ができ

る最初でした。それから、HICEからスピーチも頼まれたんです。

——どんなスピーチですか？  
たしか、女性団体に中国のことを紹介するという内容で、結構長かったですね。1時間半くらいのスピーチで、何を話したらいいかすごく悩みました。それに、質問されたりすると緊張しちゃうんです。友達に言われたのは「みんな、ナスとかトマトとか思えば大丈夫よ」って。それで練習して、スピーチしたら、「内容的にとっても良かったよ」って言われました。

——自信がついたんですね。  
はい。少しずつ自信がついて、HICEの仕事も、スピーチやイベント、料理教室などだんだんと広がっていききました。最初のときは本当に大変で、ドキドキしていましたが、後ろでみんな応援してくれていました。

### 日本と中国の違い

——日本に来たばかりの頃は、日本と中国の文化の違いで困りましたか？  
日本と中国では、いろいろ考え方が違いますね。例えば、中国人の場合は、家族や親しい友達だったら「ありがとう」ってしよっちゃう言わない。逆に他人だったら「ありがとう」って言う。他人行儀になるから、ありがとうは言わなくて当然だと思っています。ほかにも、例えば、日本人はお土産をもらったらずくに返す。中国だったら返すのはとても恥ずか

てからずつと浜松ですけれど、本当にすごく好きです。浜松の人は優しいですね。外国人にとっても生活する上で何も困らない。周りの人はみんな優しいです。だから住みやすい。HICEとか市役所の国際課とか、いろいろな組織が外国人のために考えていますね。  
——もっとこうなるといいな、と思うことはありますか？  
すでにやってもらっていますが、交流はもっと増やしてほしいですね。外国人と日本人との交流、外国人にとっては自分の地元で、何かあったときにHICEに来たら助けてもらえる。困ったときにHICEに来て、そこで交流がまた生まれるのは嬉しいです。

——そのうちの一つの役割を趙さんが担ってくれていますね。  
誰かが連れて行かないと入りにくい、ということも周りでも話題になりますね。どうやってみんなが行きやすくなるかを考えたいですね。困ったときには来てほしい、というお知らせをいろんなところに出していくのもいいかもしれませんね。

